

上橋下遺跡

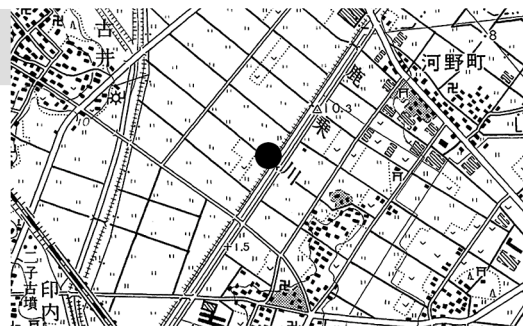
所在地 安城市川島町・古井町地内

調査理由 鹿乗川改修

調査期間 平成 13 年 10 月～平成 14 年 3 月

調査面積 4,200 m²

担当者 竹内 睦・池本正明・鈴木 裕



調査地点 (1/2.5 万「安城」)

調査の経過 調査は、鹿乗川改修工事予定地内における事前調査であり、県建設部河川課より愛知県教育委員会を通じた委託事業として平成 13 年度 10 月から平成 14 年 3 月にかけて、当センターが行っている。調査面積は、4,200 m²である。

遺跡の立地 上橋下遺跡は、愛知県安城市川島町・古井町に所在する。地形的には沖積低地の微高地に該当する。地表面の標高は 8.8 mをはかる。

調査は、中央を横断する農道を境界として、南側を A 区、北側を B 区と区分した。

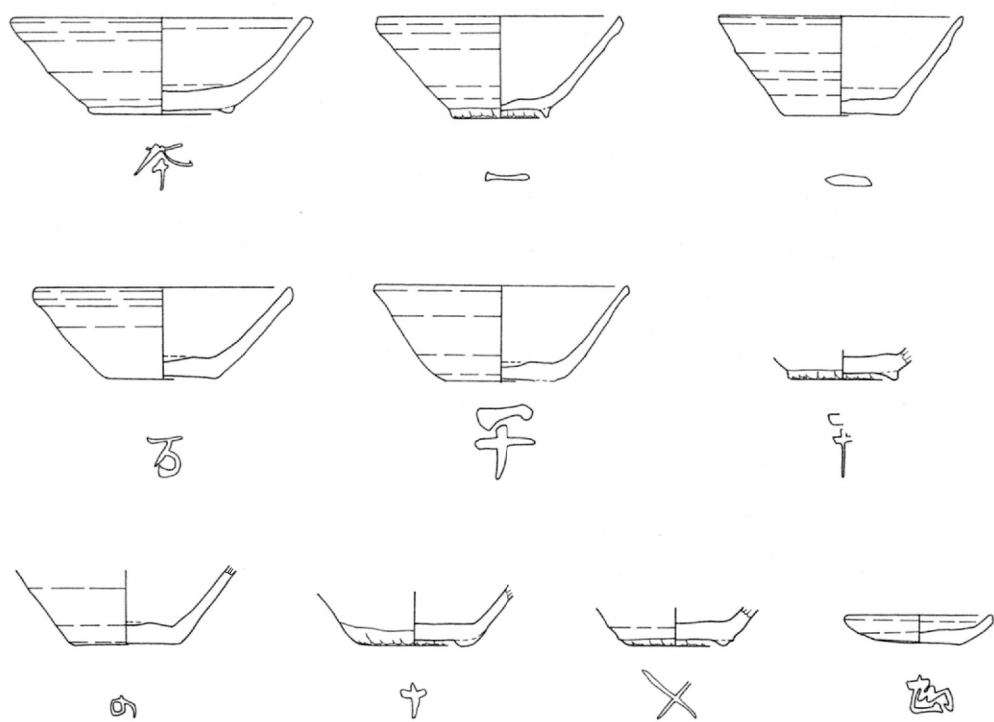
調査の概要 今回の調査で検出できた遺構には、弥生時代後期 (I 期)、鎌倉時代 (II 期)、江戸時代 (III 期) にまとまりを見る。なお、自然地形として、弥生時代～明治時代に属する旧鹿乗川の流路も二本確認されている。

I 期に属する遺構は、方形周溝墓、土坑、溝などがある。方形周溝墓は全て B 区で検出され、総数は約 10 基を数える。いずれも平面形はやや歪む。規模は、一辺 5 m 程度と、10 m 程度のものがある。この他に、A 区では鹿乗川の旧河道と考えられる流路も確認されている。幅は約 7 m。埋土からは、弥生時代後期に属する土器類の他、木製品も数点出土している。

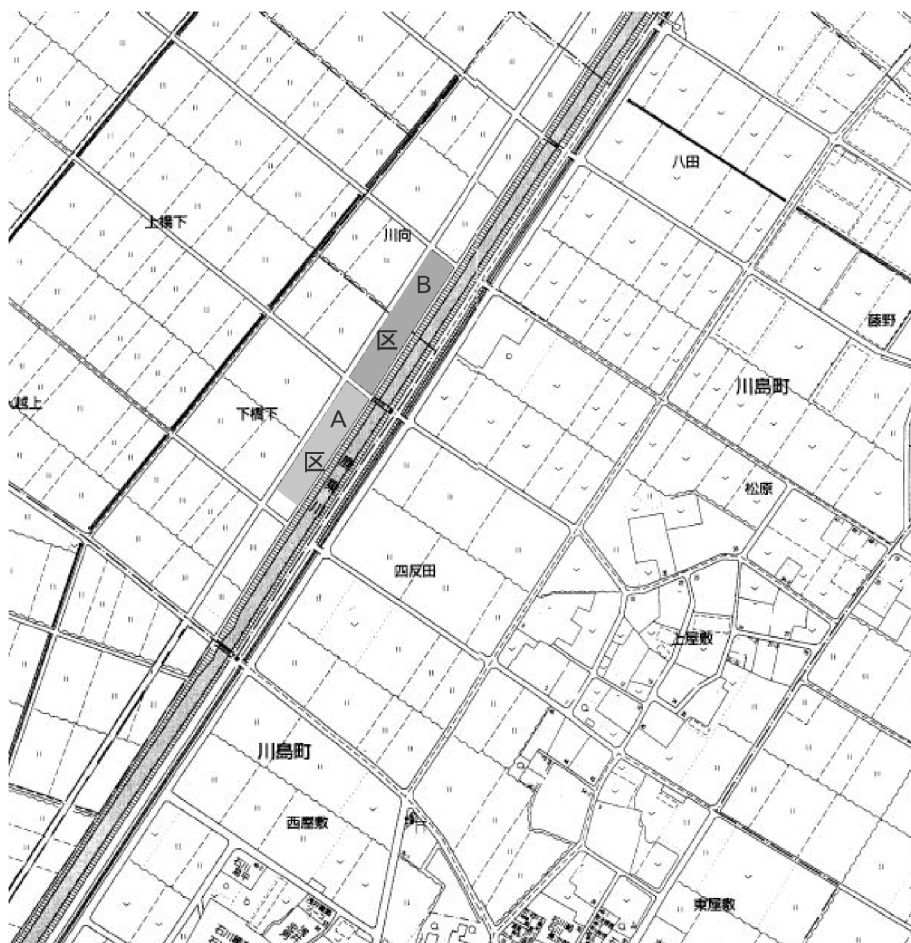
II 期に属する遺構は、土坑、溝などがある。性格が判断できる遺構は乏しいが、注目できる遺構には、A 区で検出された鎌倉時代の祭祀遺構がある。調査時に S X 02 と呼称した遺構で、旧鹿乗川の旧河道に伴う淵状の自然地形に、溝や土坑を掘削するなど、若干の改変を加えたものである。中央部分の二カ所には杭や竹をランダムに打ち込んだ構造も確認できた。出土遺物は、遺構の外郭線に沿う形で灰釉系陶器の椀、小皿類が多数得られている。これらは、使用痕が確認できないものが多く、墨書土器も幾つか含まれていることから、日常生活に伴う遺構とは考えにくい。この他に、獣骨片や銭貨なども確認できた。

III 期に属する遺構は、土坑、溝などがある。遺構は、A 区でのみ検出した。やはり性格が判断できる遺構は乏しい。このうち、A 区 S X 01 は、幅の一定しない不整形な溝状の落ち込みである。A 区の北側で検出している。埋土中からは江戸時代初期の土器類とともに、『十六』と墨書された木札が 1 点出土している。なお、A 区では鹿乗川の旧河道も確認されている。鎌倉時代頃～明治に属する河道で、幅は約 15 mをはかる。

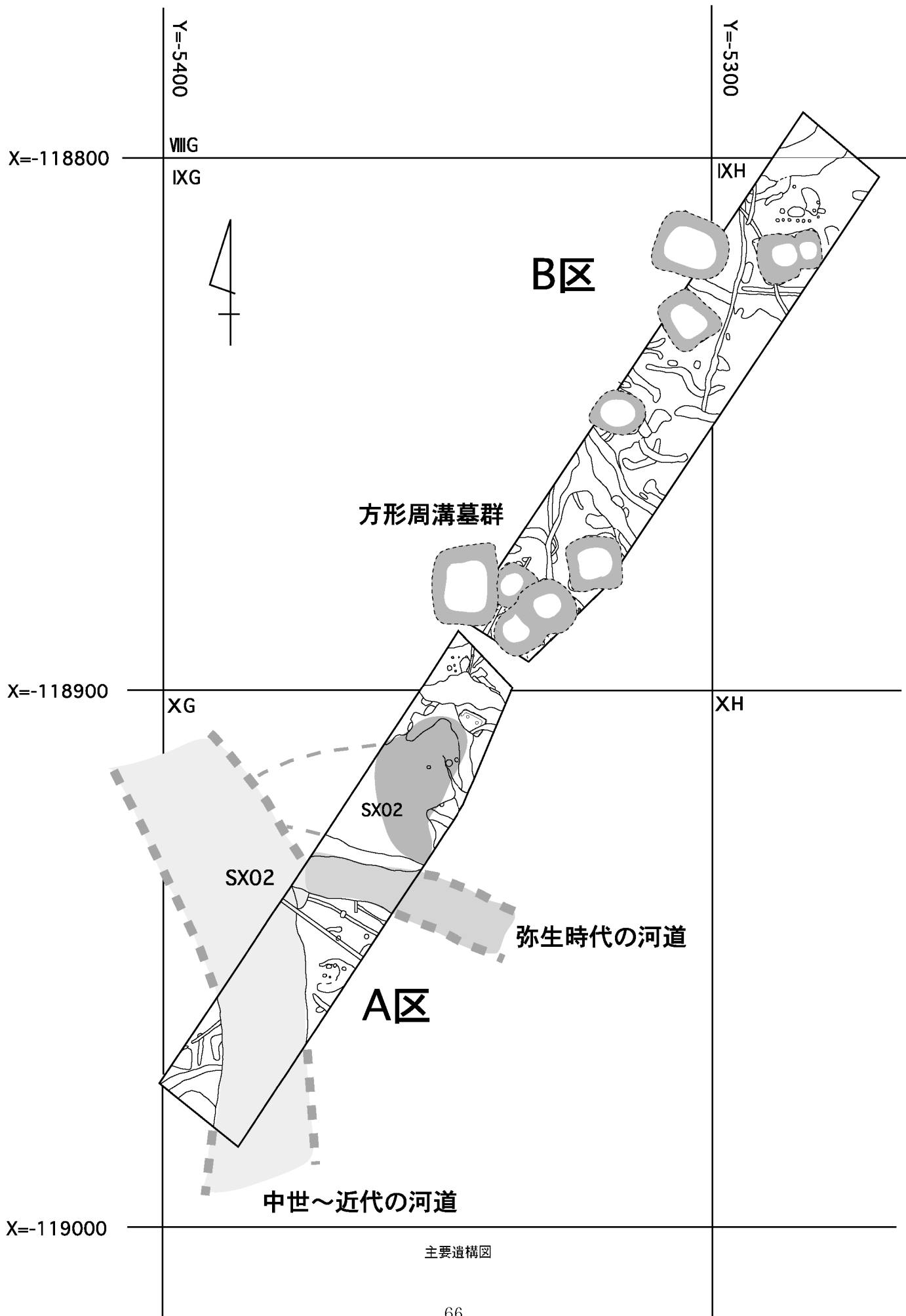
(池本正明)



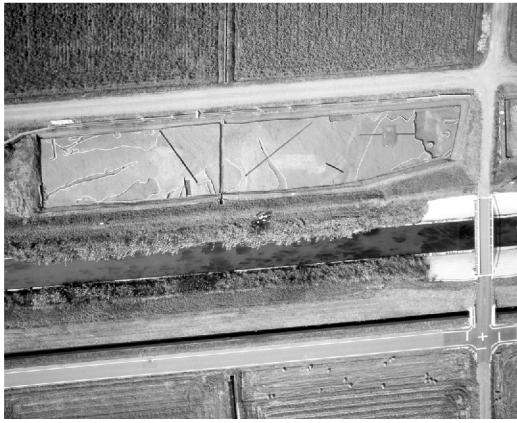
S X 04 出土土器実測図 (1 : 4)



調査区位置図 (1 : 6000)



主要遺構図



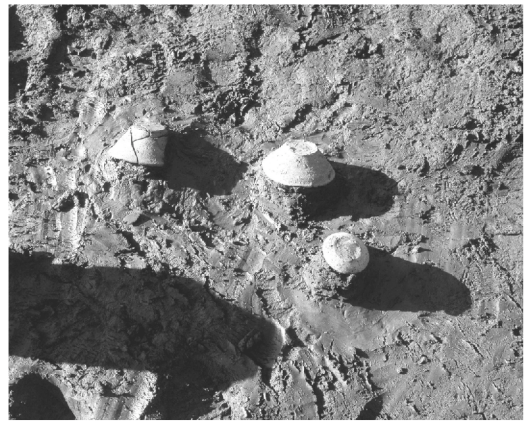
A 区全景



A 区 SX01 木札出土状況



A 区 SX02



A 区 SX02 墨書土器出土状況



B 区全景



B 区 方形周溝墓 1



B 区 方形周溝墓 2



B 区 方形周溝墓 3